



## 2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年10月31日

上場会社名 セントラル硝子株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4044 URL http://www.cgco.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 清水 正  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理室長 (氏名) 宮内 徹 TEL 03-3259-7062  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月3日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	112,370	2.1	4,706	74.9	5,496	65.3	4,292	127.9
2018年3月期第2四半期	110,094	4.5	2,691	△53.7	3,325	△42.3	1,883	△56.7

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 5,384百万円 (△19.7%) 2018年3月期第2四半期 6,708百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	106.06	—
2018年3月期第2四半期	46.29	—

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	323,616	179,749	54.5
2018年3月期	316,846	175,628	54.4

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 176,378百万円 2018年3月期 172,214百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	5.00	—	25.00	—
2019年3月期	—	25.00	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施いたしましたので、2018年3月期の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合後の基準で換算した2018年3月期の1株当たり年間配当金は50円となります。

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	230,000	1.0	8,000	32.5	9,000	42.2	6,200	108.0	152.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	42,975,995株	2018年3月期	42,975,995株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	2,504,030株	2018年3月期	2,503,508株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	40,472,248株	2018年3月期2Q	40,692,058株

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出の緩やかな増加等を背景に企業収益の改善が進んでおり、設備投資の増加の動きが見られ、雇用環境の改善が着実に続く中、個人消費にも持ち直しの動きが続いており、景気は全体として緩やかな回復基調で推移しました。

一方、世界経済は、米国では良好な雇用環境を背景に景気回復が続いているものの、米中の貿易摩擦の深刻化などによる貿易取引の停滞懸念、世界的な地政学的リスクの高まりなどにより、先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済環境の下、当社グループは積極的な販売活動を展開いたしました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は112,370百万円と前年同期比2.1%の増加となりました。

損益面につきましては、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策を推進してまいりました結果、経常利益は前年同期比2,170百万円増加の5,496百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比2,408百万円増加の4,292百万円となりました。

### セグメント別の概況

#### (ガラス事業)

建築用ガラスにつきましては、新設住宅着工戸数は前年と比較し減少しており、また、首都圏を中心とした物件の工期遅れ等の影響もあり、売上高は前年同期を下回りました。

自動車用ガラスにつきましては、国内は堅調であったものの、北米での販売の減速により、売上高は前年同期を下回りました。

以上、ガラス事業の売上高は70,712百万円(前年同期比2.9%減)となり、損益につきましては414百万円の営業損失(前年同期比663百万円の改善)となりました。

#### (化成品事業)

化学品につきましては、HF0製品の出荷が増加しましたが、子会社の工事売上が減少したため、売上高は前年同期を下回りました。

ファインケミカルにつきましては、医薬品関連製品の販売が好調に推移し、リチウムイオン電池用電解液製品の出荷が増加したため、売上高は前年同期を上回りました。

肥料につきましては、省力肥料の出荷が堅調に推移し、売上高は前年同期並となりました。

ガラス繊維につきましては、電材分野が堅調に推移しましたが、自動車分野が出荷減となり、売上高は前年同期を下回りました。

以上、化成品事業の売上高は41,657百万円(前年同期比11.8%増)となり、損益につきましては5,120百万円の営業利益(前年同期比1,352百万円の増加)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、配当の支払や新規投資などにより現金及び預金が2,453百万円減少する一方、新規投資や株価の上昇などにより投資有価証券が5,360百万円、有形固定資産が2,974百万円増加したことなどにより、6,769百万円増加し323,616百万円となりました。

負債は仕入債務が1,514百万円減少する一方、借入などの増加により有利子負債が3,851百万円増加したことなどにより、2,648百万円増加し143,866百万円となりました。

純資産は円高などにより為替換算調整勘定が1,155百万円減少する一方、親会社株主に帰属する四半期純利益などにより利益剰余金が3,142百万円、株価の上昇などによりその他有価証券評価差額金が2,013百万円増加したことなどにより、4,120百万円増加し179,749百万円となりました。また、自己資本比率は0.1ポイント増加し54.5%となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末に比べ、2,604百万円減少し、19,321百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金収支は、税金等調整前四半期純利益6,183百万円、減価償却費6,121百万円などにより、5,515百万円の収入(前年同期は7,774百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金収支は、ガラス生産設備の拡充や化成品研究関連設備の投資に伴う有形固定資産の取得による支出9,158百万円、海外子会社等への投資に伴う投資有価証券の取得による支出2,412百万円などにより、11,238百万円の支出(前年同期は13,457百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金収支は、配当の支払による支出1,011百万円、運転資金の増加などに伴う長短借入金等の増加による収入4,134百万円などにより、2,823百万円の収入(前年同期は1,079百万円の支出)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、医薬品関連製品の販売が好調に推移したことに加えて、円安の進行による営業外収益の増加、固定資産の譲渡に伴う特別利益の計上等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が前回発表予想を上回りました。

なお、海外経済の動向、原油や原燃料価格の不透明感を踏まえ、通期の業績予想につきましては修正しておりません。この業績予想は、当社が現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因によりこれらの予想とは異なる場合があります。今後の状況の変化に伴う影響を慎重に見極めながら、適宜見直していくこととしております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,673	20,220
受取手形及び売掛金	51,155	49,820
商品及び製品	25,353	25,456
仕掛品	4,932	5,771
原材料及び貯蔵品	15,975	17,430
その他	6,376	6,044
貸倒引当金	△669	△651
流動資産合計	125,797	124,092
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	30,692	32,147
機械装置及び運搬具(純額)	45,768	45,536
土地	26,664	26,517
建設仮勘定	15,511	17,217
その他(純額)	3,513	3,706
有形固定資産合計	122,150	125,125
無形固定資産		
のれん	—	61
その他	1,519	1,434
無形固定資産合計	1,519	1,496
投資その他の資産		
投資有価証券	60,994	66,355
その他	6,656	6,817
貸倒引当金	△272	△271
投資その他の資産合計	67,379	72,901
固定資産合計	191,049	199,523
資産合計	316,846	323,616

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,333	20,818
短期借入金	23,792	27,168
未払法人税等	2,076	1,753
賞与引当金	1,480	1,509
その他	21,795	24,665
流動負債合計	71,478	75,914
固定負債		
社債	30,400	30,400
長期借入金	16,836	14,312
役員退職慰労引当金	12	12
特別修繕引当金	5,729	5,817
事業構造改善引当金	3,108	2,737
環境対策引当金	15	14
顧客補償等対応費用引当金	—	23
退職給付に係る負債	7,650	7,690
その他	5,986	6,944
固定負債合計	69,740	67,952
負債合計	141,218	143,866
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,168	18,168
資本剰余金	8,109	8,109
利益剰余金	124,255	127,397
自己株式	△6,392	△6,393
株主資本合計	144,141	147,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,282	29,296
繰延ヘッジ損益	37	213
為替換算調整勘定	489	△666
退職給付に係る調整累計額	263	252
その他の包括利益累計額合計	28,072	29,096
非支配株主持分	3,414	3,370
純資産合計	175,628	179,749
負債純資産合計	316,846	323,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	110,094	112,370
売上原価	89,722	89,380
売上総利益	20,371	22,989
販売費及び一般管理費	17,680	18,283
営業利益	2,691	4,706
営業外収益		
受取利息	26	36
受取配当金	657	711
持分法による投資利益	195	157
為替差益	0	374
その他	842	646
営業外収益合計	1,723	1,927
営業外費用		
支払利息	287	304
たな卸資産廃棄損	99	284
その他	702	548
営業外費用合計	1,089	1,137
経常利益	3,325	5,496
特別利益		
固定資産売却益	—	661
投資有価証券売却益	0	26
特別利益合計	0	687
特別損失		
固定資産売却損	37	—
減損損失	56	—
投資有価証券売却損	0	—
特別損失合計	94	—
税金等調整前四半期純利益	3,231	6,183
法人税等	1,177	1,534
四半期純利益	2,053	4,649
非支配株主に帰属する四半期純利益	169	357
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,883	4,292



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	2,053	4,649
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,586	2,012
繰延ヘッジ損益	33	176
為替換算調整勘定	△901	△1,321
退職給付に係る調整額	△30	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	△31	△121
その他の包括利益合計	4,655	734
四半期包括利益	6,708	5,384
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,534	5,134
非支配株主に係る四半期包括利益	173	249

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,231	6,183
減価償却費	5,940	6,121
減損損失	56	—
のれん償却額	21	2
引当金の増減額(△は減少)	94	△225
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	120	△25
受取利息及び受取配当金	△684	△748
支払利息	287	304
持分法による投資損益(△は益)	△195	△157
投資有価証券売却損益(△は益)	0	△26
固定資産売却損益(△は益)	29	△666
固定資産廃棄損	271	223
売上債権の増減額(△は増加)	751	1,014
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,859	△2,936
仕入債務の増減額(△は減少)	716	△1,334
未払消費税等の増減額(△は減少)	1,001	△1,144
未払費用の増減額(△は減少)	△1,093	△315
その他	△581	573
小計	8,108	6,841
利息及び配当金の受取額	824	840
利息の支払額	△301	△318
法人税等の支払額	△857	△1,847
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,774	5,515
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△137	△739
定期預金の払戻による収入	219	561
有形固定資産の取得による支出	△12,401	△9,158
有形固定資産の売却による収入	11	984
投資有価証券の取得による支出	△606	△2,412
投資有価証券の売却及び償還による収入	8	34
事業譲受による支出	—	△217
その他	△550	△291
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,457	△11,238
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,358	4,045
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	—	3,000
長期借入れによる収入	500	—
長期借入金の返済による支出	△2,909	△2,910
自己株式の取得による支出	△1,001	△1
配当金の支払額	△1,022	△1,011
非支配株主への配当金の支払額	—	△345
非支配株主からの払込みによる収入	—	52
その他	△4	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,079	2,823
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	295
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△6,743	△2,604
現金及び現金同等物の期首残高	30,446	21,925
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,703	19,321

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

偶発債務

強化ガラス及び耐熱強化ガラスについては、一般的に極めて稀にガラス内に含まれる除去不可能な異物が膨張することによって外力が加わらない状態で自然に破損するケースが確認されております。当社においては、このような自然破損の発生確率を低減させる措置として対象の製品につきましては製造後に再加熱処理を実施し、異物が含まれていた場合に強制的に膨張させ工程内で破損させる処理を行うこととしておりますが、当社の生産委託先である富士ハードウェア株式会社が過去に製造した対象製品の一部について、当該処理を行わずに製品を出荷していたことが判明しました。(当該処理はJ I S規格等で定められたものではなく顧客の指示及び当社の自主判断にて実施することとなっている処理のため、当該製品につきましてもJ I S規格に適合しており、強化ガラスとしての強度等の性能については問題ございません。)

本事案の今後の進捗次第では、顧客等への補償費用を始めとする損失等の発生により、当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現時点でその影響額を合理的に見積ることが困難なものについては、四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(重要な引当金の計上基準)

顧客補償等対応費用引当金

今後発生が見込まれる顧客等への補償費用及び損失について、合理的に見積もることが可能な金額を計上しております。

## (セグメント情報)

## 1 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	72,830	37,263	110,094	—	110,094
セグメント間の内部 売上高又は振替高	77	524	602	△602	—
計	72,907	37,788	110,696	△602	110,094
セグメント利益又は損失(△) (営業利益)	△1,077	3,768	2,691	—	2,691

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

## 2 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	70,712	41,657	112,370	—	112,370
セグメント間の内部 売上高又は振替高	50	489	539	△539	—
計	70,763	42,146	112,909	△539	112,370
セグメント利益又は損失(△) (営業利益)	△414	5,120	4,706	—	4,706

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。